

令和5年度学校自己評価成果と課題

教務部	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの5類移行を受けて、行事や全校集会などコロナ禍以前の形に戻すことができた。その一方、猛暑による暑熱対策として、冷房のある教室で放送に切り替えるなど臨機応変に対応することができた。 ・評価規程をはじめ、考査に関する規程などいくつかの重要な規定について見直し、改正した。 ・創立50周年記念事業について実行委員会を4回開催し、準備を進めることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、とりわけ考査答案の管理について見直し、検討する。 ・今年度2年生の1,2学期期末考査を連続する5日間で行ったが、生徒の負担が大きい。実施科目の精査や、実施日数、また土日を挟む日程など検討する必要がある。 ・観点別評価と評定の相関について調査し、全職員に情報提供したが、引き続き精度を上げていく努力をしていく。
進路指導部	成果	進路計画に基づき、進路行事・講習・進路情報の発信ができた。
	課題	学力向上のために学習習慣を確立し、学習時間を確保することが必要である。3年生で進路決定後に学習意欲の低下が見られたが、学習を習慣化させることで防止に努めたい。
生徒指導部	成果	多くの生徒が爽やかな挨拶が出来るようになったり、時間や決まり事を遵守する意識が高まってきたように感じる。引き続き声かけを行っていきたいと考える。
	課題	SNSに関するトラブルや、高校生として不適切な振る舞い等が見受けられる。クラス、学年、学校全体として根気強い声かけや意識啓発に取り組む姿勢が必要である。
生徒会部	成果	コロナ禍により生徒の行事運営のノウハウが失われつつあった中で、生徒がそれぞれ工夫しながら、自ら考え、課題解決し、新しい時代の生徒会活動を展開することができ、生徒一人一人の達成感も醸成できたと考える。また、実際の運営においても、一定程度の感染予防を施しながらも広く一般に公開することができ、校内外に生徒の活動の一端を見せることができ生徒の励みにもつながった。
	課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 創立50周年の記念生徒会行事を念頭に、行事に必要な物品の購入や生徒会行事の内容のグレードアップ化などについて、早めに取り組む。 ② 会計について、次年度も引き続き検討を重ねていく。 ③ 生徒会新聞、生徒会誌における原稿入稿のデジタル化を図る。(iPadを活用できないか検討)
施設保健部	成果	<p>生徒の健康管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断、身体測定を予定通りに行った。 ・体温記録票を配布し、検温と健康観察を促した。 ・体調不良や怪我に適切に対応し、処置をした。 <p>学校施設の整備と美化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃計画を立て、毎日の清掃を通じた校内美化に努めた。 ・必要に応じ、大清掃やワックスがけ等を立案した。 ・昨年度からの申し送り事項に従い、雑巾をまとめて購入した。 ・コロナ前に戻した形での避難訓練を行った。 ・地震で被災した校舎の修繕について、事務長と相談した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの5類移行に伴う感染予防意識の低下からか、インフルエンザの流行、その後にはコロナ感染の再燃があった。引き続き予防の重要性について声かけを行っていく必要がある。

		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具や消耗品類の購入に関し、予算内でできる限り補充したが、清掃箇所によっては新たな用具を要望する声もあり、それに応えるには予算を配分してもらう必要がある。 ・心のケアを必要とする生徒が増加しており、保健室、とりわけ養護教諭のサポートが急務であると考えている。
教育情報部	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報部が立ち上がり2年目となったが概ね順調に作業を進めることができた。 ・校務支援システムにおける他の分掌との役割分担を明確にできている。 ・5月に欠席等連絡のWeb入力システムを開始した。これにより、クラス担任の朝の業務を軽減することができた。 ・教師用タブレットが年度途中で11台が補充された。台数は未だ不足しているが、通常の授業やリモート授業での活用の促進につながった。 ・生徒用タブレットに関して年度初めの一斉配付と卒業生からの回収はスムーズに行えた。また故障や様々なトラブルへの対応法もある程度整理できた。 ・Classroom, Meet や Form など、授業やホームルームで有効に使われている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はICT機器を使用する際に、下記のような多くの制約を受けており、業務に支障をきたしている。ネットワーク設置者に働きかけていく必要がある。学習支援システムでは同時接続数に限りがあり朝学習などで利用できない。校務支援システムでは当初教室で出欠入力ができるはずであった。Google Workspace へのアクセスでさえインターネット分離やファイル無害化が必要であり煩雑である。 ・今年度も、デジタル採点システム, note, (Web出願システム) など新しいシステムが導入された。その度毎に、一部または教員全体が負担を強いられ、本来の業務が後回しになるような体制は改善すべきである。 ・生徒用タブレットの破損が6件あった。昨年度からの繰り越し3台も含めて、その修理費が他の予算を圧迫している。破損に対する学校の対応を変更する必要がある。また、カバーを外して使用、初期化してアプリをインストールなど不適切な使用事例も散見された。
1学年	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な悩みやストレスを抱える生徒に対し、カウンセリングや面談を通してフォローすることができ、1年を通して登校や授業を受けさせることができた。 ・継続した指導は必要であるが、行事や講演等を通し、時間を守る意識の定着や話を聞く態度、積極的に取り組む姿勢の向上が見られた。 ・部活動への加入率が高く、学業との両立を頑張っている生徒が多い。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣が確立されていない生徒が多く、1日の平均学習時間が少ない生徒が多く、上位層と下位層の学力差が広がってきている。 ・SNSによるトラブルやスマホ依存(SNS・ゲーム等)の生徒が多く見られ、体調管理や学業への取り組みに影響が出ている。継続した注意喚起・指導が必要である。 ・対人関係についてストレスを感じ、長期欠席や保健室に長期間在室する生徒が多く見られた。新年度のクラス替えに伴う、人間関係の構築に配慮したい。
2学年	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路探究を進める中で、進路への意識が芽生え、具体的な進路目標を掲げる生徒が増えた。 ・大学進学を考える生徒に模擬試験受験を促し、180人以上の希望者が受験した。 ・修学旅行を経験し、頭髪・服装やスマホ管理等の生活習慣が身につき、学年全体の一体感がでてきた。 ・いじめ案件が1年時から大きく減少した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習への遅刻や取り組みが徹底できなかった。引き続き、声かけを行っていききたい。 ・手帳の活用が進まず、提出物やアンケートの締め切りが守られない。出願等に

		<p>向けて厳しく指導したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間が少ない。課題の答えを丸写しで提出している者もあり、学習習慣を身につけさせたい。
3 学 年	成果	<p>学校での行事や諸活動の実施がほぼコロナ禍以前の水準まで回復し、生徒が生き生きと活動する様子が見られた。しばらく行事等の中止が続く中で経験不足が心配されたが、体育祭や部活動等で最上級生としてリーダー、まとめ役の役割をよく果たしていた。</p> <p>受験対策や出願準備等の指導を丁寧に行うことにより、ほとんどの生徒がトラブルなく進路を決定することができた。</p>
	課題	<p>進路希望がなかなか定まらない生徒や、自分の希望に見合った進路研究や受験対策などの長期的・計画的な準備ができない生徒が多く見られた。希望実現のため計画的に準備を積み重ねさせるためにも、1・2年時の早い段階で具体的な進路希望をしっかりと持たせることが課題であると考えます。</p>